



腹部エコーの画像の見方を研修医に指導する研修指導医

インフォームド・コンセントって?

阪大病院では、患者さま自身にどのような診療を受けられるのかを正確に知っていただき、患者さまが納得されたうえで検査や治療などの医療行為を行っています。その基本となるのが、大阪大学医学部附属病院における「インフォームド・コンセント」に関する指針です。患者さまの立場に立ち、Q&A形式で解説しましょう。

病状や治療方針を患者さまに説明する主治医

独自の指針作成



Q インフォームド・コンセントをわかりやすく説明してください。A 「病気のことは医者に任せておけ」という時代もありました。今は治療の選択が広がり、患者さまの価値観も多様化しており、ま

正確な病状を伝え

治療法、リスク説明

納得して診療に

も多様化しており、また、病気が闘ったりうまくあつていくためには、患者さまの医療への積極的な参加が不可欠になってい

現在、現在の医療は一つの病気にしてもさまざまな検査法や治療法があり、それぞれに利益やリスクがあります。特に大学病院では、

だれに行つてですか。A 主治医が患者さま本人に行つていただくことが基本です。実際の検査や手術を担当する医師が行つても構いません。また、患者さま本人が未成年の場合や判断能力に疑問があるときには家族に対して行います。Q 医学的専門用語で説明されても、なかなか理解できないことがあります。A わからないことがあつたら、遠慮せずになんでも聞いてください。医師だけでなく可能な限り看護師も同席する

卒業生に臨床研修制度

専門外の知識 技術 2年間で修得

03年度からスパーローテーション方式

阪大病院では、質の高い医師を育てるために医学部卒業生に対して来年度から厚生労働省が定めた臨床研修制度により、プライマリケア(初期医療)を重視した臨床研修制度を行います。

これからの医師に求められるのは、専門性も重要ですが、同時により広範な医学知識、技術を持ち、人間性のあるプライマリケアができることです。阪大病院では、質の高い医師を育てるにはどうすればいいのか卒業臨床研修のありかた

を検討してきました。来年度から実施される制度「スパーローテーション」方式では、120/130人の研修医を受け入れ、2年間で内科、外科、救急医療、小児科、産婦人科と地域医療の実際を学ぶようになります。研修当初の1カ月は診療の基本を習得していただきます。その後、プライマリケアの基本となる内科は、6カ月間の研修期間とします。外科と救急がそれぞれ3カ月、小児科、産婦人科系はそれぞれ3カ月の研修期間とします。これらの研修は阪大病院だけではできないこともありますが、地域の老健施設や保健所などの行政機関、関連病院や診療所などにも協力をお願いいたします。すでに、内科系、外

科系、分娩育児部、精神科、地域医療はそれぞれ1カ月にします。2年目の残りの6カ月間は、それぞれ臨床研修を行います。複数診療科の研修を行うことで、短期間で持ち場が替わるために、患者さまから「担当医がくるくる替わる」という不満をお聞きすることもあります。新しい制度でも患者さまに迷惑をおかけすることはありませんが、患者さまの気持ちや、関係者の高い医師を育てるためにも、ご協力をよろしくお願いたします。

入院患者さまのために クリスマスコンサート



入院されている患者さまにクリスマスを楽しんでもらおうと、12月25日、エントランスホールで恒例のクリスマスコンサートが開かれました。

ベッドに寝たままや車イスに乗った患者さまら約400人が集まり、補助イスを出さなければいけないほどでした。松田病院長が「病院からのクリスマスプレゼントです。今夜は音楽でいい夜を過ごしてください」と、挨拶して、開会。第1部は神戸学院大学音楽学部「音楽によるアウトリーチ・ベル・グループによるハンド・ベルの演奏。このグループは、この日のために特別に結成された8人のチームでハンド・ベル49個を使ってジングルベルなどクリスマスにちなんだ15曲を演奏しました。一番重いベルは2kg近くもあり、8人は1人でいくつものハンド・ベルを振りながら、演奏していました。

第2部は大阪大学交響楽団の14人がサンタクロースの衣装に身を包んで、院内学級からリクエストのあつた「君を乗せて」など5曲を演奏しました。素敵な演奏に患者さまから大きな拍手が送られました。

また、本院のボランティアさんから、手作りのプレゼントが会場で配られました。

患者さま用立体駐車場を新設

近年の来院患者さまの増加に伴い、手狭になっていた患者さま用駐車場を改善するため立体駐車場の建設を進めています。工事期間中は患者さまにもご迷惑をおかけしておりますが、公共交通機関で来院いただくなどのご協力をよろしくお願いします。

新しい立体駐車場の完成により、これまでよりも100台程度の駐車スペースが増え、より多くの患者さまにご利用いただけるようになります。利用料金はこれまで通り1時間200円(30分以内は無料)で、受診当日は無料となります。

ボランティア感謝状を贈呈



本年度のボランティア感謝状贈呈式が11月27日、本院において行われました。通算活動時間3000時間達成者1人をはじめ、20人の病院ボランティアさん一人一人に松田病院長から感謝状が贈呈されました。松田病院長が「患者さまの心が癒やされ、病院の業務が円滑に行われるのも皆様のおかげです」と、ボランティアさんの日常の誠実な活動に対し感謝の意を述べました。

また、ボランティアさんは模擬患者として医学部4年生の臨床実習に協力しており、山西医学部長が模擬患者となった28人に感謝状を贈呈しました。式の後は、昼食会が開かれ、親睦を深めました。

ホスピタル・パークの草刈り

患者さまが散歩などをされる憩いの場「ホスピタル・パーク」と正面玄関前の植え込みの草刈りを10月26日に行いました。作業を申し出てくださったホスピタル・パーク担当のボランティアさん50人と病院の職員10人とで、散策路を覆い隠さんばかりに伸びた雑草を鎌、熊手、芝刈り機などを使って刈り取りました。

午前中の約2時間、休憩もせずに作業を行いました。刈り取った草は90リットルサイズのゴミ袋約80袋にもなりました。ボランティアさんらは「こんなに大変な作業だとは思っていませんでした。まだまだ刈り残したという気がしてなりません。次の機会があれば、今回よりもっときれいにしたいですね」と、話しておられました。

ホスピタル・ユニース

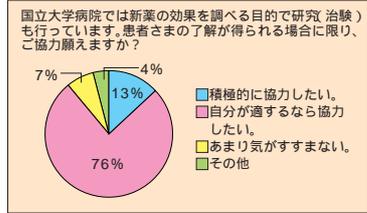
新しい手術法を開発

耳鼻咽喉科



耳鼻咽喉科は、中耳炎、難聴、めまい、アレルギー性鼻炎、副鼻腔炎、喉頭・咽頭がんなどの診断、治療を行っています。先進医療を担う大学病院として、人工内耳を利用したり、新しい手術法を開発したり、耳鼻咽喉科領域の治療の進歩に貢献しています。

患者さまアンケート



新薬の効果研究に「協力したい」89%。患者さまアンケート前号に引き続き、全国42国立大学病院中15の国立大学病院で行われた「患者さまアンケート」の結果をご紹介します。

「自分が適するならば協力したい」という項目に多くのご回答を頂いています。また、最先端医療については、期待しているという項目に回答が集中し、患者さまが最先端の医療を受けられることに期待を大きく寄せられています。

「自分が適するならば協力したい」という項目に多くのご回答を頂いています。また、最先端医療については、期待しているという項目に回答が集中し、患者さまが最先端の医療を受けられることに期待を大きく寄せられています。

かかりつけ薬局確保

阪大病院には茨木市民がたたく市薬剤師会では、市内のどのかかりつけ薬局に阪大病院の処方箋を持ってくるか、かかりつけ薬局を確保する必要があります。

また、かかりつけ薬局を持つておられる方も、これまで処方された薬の履歴が登録され、飲み合わせによる副作用の手配なども防ぐことができます。さらに、薬を受け取りに行くことができずには、配達もしてあります。かかりつけ薬局を決めておられない患者さまは、処方箋を受け取る薬局を確保する必要があります。

重篤な副鼻腔炎の患者さまの手術は、副鼻腔の構造が複雑で、脳に近いこともあり、リスクが大きく、時間がかかっています。当科では、画像診断情報をもっと利用した手術のナビゲーションシステムを開発しました。

国民病であるアレルギー性鼻炎の治療は、一般に行われていた薬物療法、減感作療法だけでなく、根治療法としてレーザー手術や内視鏡を使った後鼻神経切断手術を実施しています。

喉頭がん、咽頭がん、舌がん、鼻副鼻腔がん、唾液腺がん、甲状腺がんなどの悪性腫瘍が対象になります。頭頸部領域の治療は、手術によって病巣が除去できても、顔が

変形したり、食べ物が食べられなくなったり、しゃべれなくなったりすることがあります。美容面やQOL（生活の質）を確保される機能の温存が重視されており、当科では手術

だけでなく、放射線化学療法を組み合わせた集学的治療を積極的に行い、治療率の向上と共に、機能の温存に力を入れています。救急疾患としては、鼻出血、食道・気道の

異物、突発性難聴などは緊急入院をして頂き治療にあたって頂く患者さま受け付け体制、研修医の指導体制、時間外の診療体制、医薬品や医療機器などの管理・取扱い「臨床検査・病理検査」

「臨床検査・病理検査」や輸液ポンプなどの医療機器の管理が中央化されていること、手術室のセキュリティが確保されていること、病指管理体制および病棟の医薬品管理においての課題が指摘されました。一方、人工呼吸器などの医療機器の管理が中央化されていること、手術室のセキュリティが確保されていること、病指管理体制および病棟の医薬品管理においての課題が指摘されました。

「臨床検査・病理検査」や輸液ポンプなどの医療機器の管理が中央化されていること、手術室のセキュリティが確保されていること、病指管理体制および病棟の医薬品管理においての課題が指摘されました。

「臨床検査・病理検査」や輸液ポンプなどの医療機器の管理が中央化されていること、手術室のセキュリティが確保されていること、病指管理体制および病棟の医薬品管理においての課題が指摘されました。



社団法人茨木市薬剤師会会長 阪本 一平

また、かかりつけ薬局を持つておられる方も、これまで処方された薬の履歴が登録され、飲み合わせによる副作用の手配なども防ぐことができます。さらに、薬を受け取りに行くことができずには、配達もしてあります。かかりつけ薬局を決めておられない患者さまは、処方箋を受け取る薬局を確保する必要があります。